



心
最高の
設備 技術

最前線医療を行く

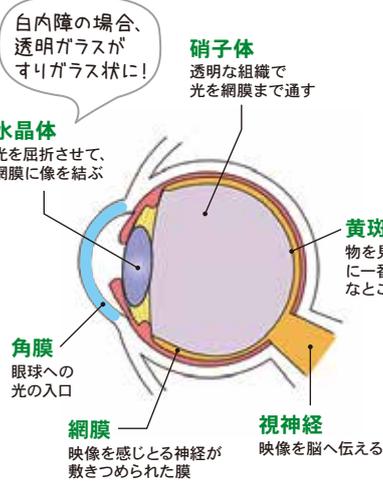
高齢化社会。良好な視力が、日常生活を変える！
白内障、網膜硝子体手術のエキスパートDr.が着任

手術機器と技術の進歩により、
ごく小さな傷で短時間到的確な治療

高 齢化社会を健全に過ごすには、目の健康をおろそかにできない。視力の低下は、日常生活が不便になる上、読書や映画、旅行の楽しみも減り、思わぬ怪我也も増える。特に白内障や緑内障、網膜硝子体疾患などは、早めの治療が必要だ。この秋から白内障手術を再開し、新たに網膜硝子体手術も始まった西の京病院眼科の伊藤 暁部長に、その最先端手術や治療について話を伺った。

●白内障とは？

カメラでいうとレンズにあたる水晶体という部分が、白く濁ってくる病気が白内障。加齢によるものがほとんどだが、アトピー性皮膚炎や糖尿病などの合併症で若い人にも増えている。進行すると、レンズが光を通さなくなるので視力の低下やぼやけ、かすみなどを感じる。日常生活に差し支えるようになれば、手術が必要だ。



●白内障手術

手術は、局所麻酔（目薬）下で顕微鏡を使って行い、痛みはほとんどなく、傷口も約2ミリの前後と非常に小さい。超音波で濁った

た水晶体を取り除いた後、眼内レンズ（ルーブも入れて10ミリの程度）を挿入する。その時間はわずか10分ぐらいいで、日帰り可能（希望があれば入院）だ。

レンズの性能も良くなった上に、多焦点レンズ（遠近両用）、乱視用など付加価値の付いたものもある。

水晶体自体が外れたり、緑内障や糖尿病がらみだったり、の難治性白内障にも対応します。



●網膜硝子体疾患とは？

硝子体は、水晶体の奥の球状をしたゲル状の組織で、眼球の形を保ち、入ってきた光を屈折させる役割。様々な原因で網膜を引っ張る、増殖膜ができる、穴が開くなどで炎症や網膜剥離を引き起こしたり、濁りや出血などで眼の障害を引き起こしたりするもの。

怖いのが糖尿病性網膜症、網膜に酸素や血液の供給がでず網膜に出血や浮腫（む

くみ）、網膜剥離が生じ、視力に障害を来す。

●網膜硝子体手術

網膜硝子体手術は、局所麻酔下で白目部分の3か所に小さな穴（0.5ミリ以下）を開け、細い器具（27ゲージ）で行う。眼内の出血や濁りを除去したり、はがれた網膜を貼り付けたりする。無縫合のことが多く、2〜7日の入院（目の中の状態により、うつぶせ寝が必要）となる。

世界最小の切開創の手術を可能にした
最新型硝子体手術装置



白内障にかかっている患者さんは、その手術も同時に行うこともあります。

目に負担の少ない手術を心がけています。目に異常がないか、時々、片目でモノを見ることをおすすめします。

セルフチェック

- 視野に欠けがないか
- ゆがんで見えないか
- 左右で色が違わないか
- 白い壁やカーテンが黄ばんで見える



眼科部長
伊藤 暁 医師 ITO SATORU
日本眼科学会専門医、眼科専門医
【専門】
網膜硝子体手術・難治性白内障
診察日/月・火・水・金曜日
緑内障や黄斑変性、ドライアイなど、目に関する事なら何でも相談してみよう。